



# 沖縄戦 県民12万人命落とす

## あれから75年 6月23日「慰霊の日」

太平洋戦争末期の1945年3月26日、アメリカ軍が沖縄県の慶良間諸島に上陸して沖縄戦が始まりました。4月1日には沖縄本島に上陸し、住民たちは空や海から、そして陸上でも、じゅうや大砲のこうげきにさらされました。すさまじいばくげきは「鉄の暴風」といわれ、約3カ月間の地上戦で県民の4人に1人が命を落としました。

### 「鉄の暴風」約3カ月間続く

沖縄は本土を守る「捨て石」とされ、足りない兵力を補うため、男子学生らによる「鉄血勤皇隊」や、けがをした軍人の世話をする女子学生らの「ひめゆり学徒隊」など10代の青年が中心の部隊も結成されました。ばく業をかついでアメリカ軍の戦車へのとつげきを命じられた人もいたといい、計約2千人のうち、半分以上が亡くなりました。

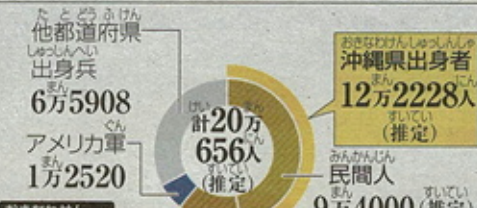
日本軍は追いつめられ、45年6月23日に沖縄の守備を担う第32軍の牛島満司令官たちが自ら命を絶ち、組織としての戦いは終わりました。ただ、その後も一部で戦いが続き、現地の日本軍が正式に降伏したのは8月15日

の終戦から約3週間後の9月7日でした。

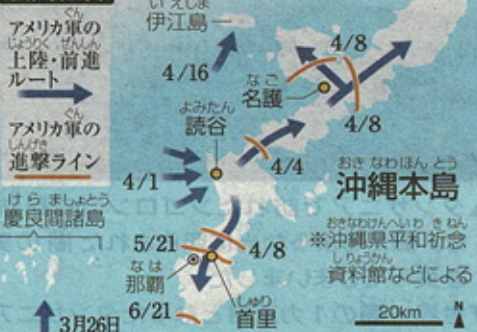
死者数はアメリカ側が1万2520人、日本側が推計で18万8136人で、そのうち沖縄県民は約12万2千人でした。現地の日本軍により集団自決に追いこまれたり、スパイとみなされてむごたらしい方法で殺されたりした住民もいました。

6月23日は沖縄戦で亡くなった人をいたむ「慰霊の日」でした。糸満市で営まれた追悼式で、玉城デニー知事は原子ばくだんが投下されて大きな被害を受けた広島、長崎と「平和を願う心を共有する」とうたったえ、戦争のない社会にすることをちかいました。ただ、

### 沖縄戦で亡くなった人の数 ※沖縄県による



他道府県出身兵 6万5908  
アメリカ軍 1万2520  
計20万656人(推定)  
沖縄県出身者 12万2228人(推定)  
民間人 9万4000(推定)



終戦から75年たち、戦争を体験した世代がどんどん年老いています。戦争の記憶や教訓をどのように残し、平和の大切さを伝えていくかがこれからの課題です。

### 日本にあるアメリカ軍施設の70%が集中 くり返される事故、事件

アメリカは戦争の後、1972年「うけんとブルドーザー」といわ  
まで沖縄県を占領し、「じゅれる手法で住民の土地を力ず



くで取り上げ、次々と基地を建てました。沖縄には国内のアメリカ軍専用施設の70%が集中し、沖縄の人たちは減らしてほしいとうたっています。

住民は基地の騒音や軍用機の事故、アメリカ軍人の犯罪にも苦しめられています。55年に小学生の女の子が軍人に暴行されて死亡し、59年には小学校に軍用機が落ち、児童ら17人

家や学校のすぐ近くにある  
沖縄県宜野湾市のアメリカ軍普天間飛行場＝5月

が亡くなりました。72年に沖縄が日本に返された後も事故や事件はくり返されています。

日本とアメリカ両政府は96年、周りに民家や学校が集まり「世界一危険な米軍基地」ともいわれる宜野湾市の普天間飛行場を日本へ返すことで合意しました。代わりに、日本政府は名護市辺野古沖の海に、新しい基地をつくることを決めました。これに反対する住民も多く、「沖縄に負担をおしつけている」と不満をつのらせています。